

輸出事業計画

※申請者名：有限会社大崎農園、品目：だいこん

1. 輸出における現状と課題

現状

- ・有限会社大崎農園は、だいこんやキャベツを主体とした露地野菜栽培と葉ねぎの施設栽培を行っており、栽培延べ面積は130haを超える。
- ・土作りを中心とした環境に優しい農業に取り組み、2015年には「GLOBAL G.A.P.」を取得した。
- ・2020年からだいこんの輸出に取り組んでおり、輸出先は香港、シンガポール、タイを中心とした東南アジアが主である。

課題

- (1) 生産技術
 - ・輸出先の規制やニーズに適応した栽培技術の確立がなされていない。
 - ・輸出野菜の生産コストが明確でなく商談時の参考となるデータがない。
- (2) 流通
 - ・生産量の増加に伴い輸出用の予冷処理に支障が出てきている。
 - ・長期輸送に伴う梱包資材の強度低下が懸念される。
- (3) 販売
 - ・海外でのだいこんの調理法があまり知られていない。
 - ・自社開発商品「千切り大根」の販路開拓がなされていない。

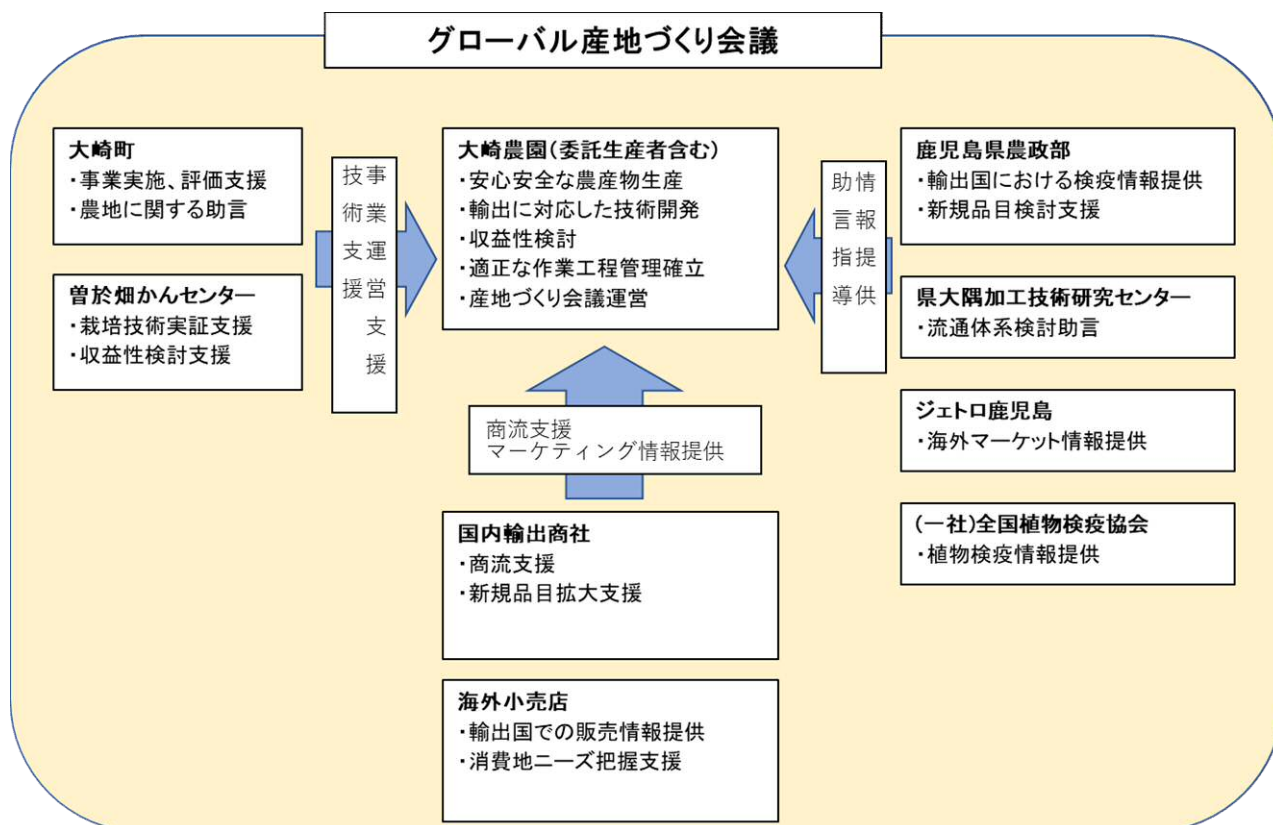
2. 輸出事業計画の取組内容

取組内容

- (1) 生産技術の確立
 - ・輸出先国の規制に対応した防除技術体系の検討
 - ・海外ニーズに適応した商品づくりのための品種、作式等の検討
 - ・輸出向け生産コストの把握による適正な再生産価格の設定
- (2) 流通体系の改善
 - ・安定供給のための予冷施設の拡充
 - ・長期輸送に耐えうる梱包資材・方法の検討
- (3) 消費拡大活動
 - ・リーフレット等を活用しただいこんの食べ方・調理法の周知
 - ・千切りダイコンの販路開拓に向けた市場調査・サンプル輸出

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

実施体制



4. 輸出目標額

だいこんの輸出目標

	現状 (令和2年度)	目標 (令和6年度)
輸出額(千円)	9,040	21,000
輸出量(t)	113	300
輸出先国	シンガポール、タイ、香港、台湾	シンガポール、タイ、香港、台湾